

為替の乖離を狙う「アービトラージ手法」を取り入れた資産運用

ワーテルローファンド

Waterloo Fund

限りなくゼロに近い
リスク



East Wind Company Limited

目次

1. ワーテルローファンドは「乖離の連鎖」を利用した資産運用のご提案です。	3
2. ワーテルローファンドの具体的な特徴	4
3. ワーテルローファンド運用について(シミュレーション)	5
4. 逆張りの効果 ~だから、逆張りが生きる~	7
5. 各通貨(USDドル、豪州ドル、日本円)の為替推移	10
6. ファンド運用実績① (JPY-NZD)	11
7. ファンド運用実績② (JPY-NZD-USD-AUD)	12
8. ワーテルローファンド お申込条件・詳細	13
9. 会社概要	14



1. ワートルローファンドは「乖離の連鎖」を利用した資産運用のご提案です。

現在の為替取引の殆どは実需ではなくファンドによる取引である事は多くの方がご存じのとおりですが、その取引手法の半分近くがコンピューターシステムによる自動取引で運用されていることはご存じでしょうか？自動システム取引は24時間365日世界中のECN市場を自動検索して為替の乖離を見つけた瞬間に大量の取引を入れ同時に反対取引を入れる事で鞘抜き(アービトラージ)をして利益を確定させます。

これは世界中の大手ファンドが導入しており、時には実際の為替動向とは全く関係なく大きな動きを見せる事があります。これは市場のほんの小さな乖離を見つけた最初のシステムが大量の売買を入れた瞬間に他のファンドのシステムがその乖離を見つけ更に大量の取引を行いこれが繰り返される事で「自動取引が引き起こす乖離の連鎖」を発生させます。竜巻のようなものでいつ発生するかは分かりませんがどこで発生するか限定されていますので常に監視をする事が可能です。

この「乖離の連鎖」は元々本来のトレンドではない為に数時間から数日で本来のトレンドに戻ります。当社の運用は「乖離の連鎖」を見つけ出して現物取引で逆張り[Contrarian Trading]を行い為替が元に戻るまで持ち続けて[Buy&Hold]利益を確定させる手法です。

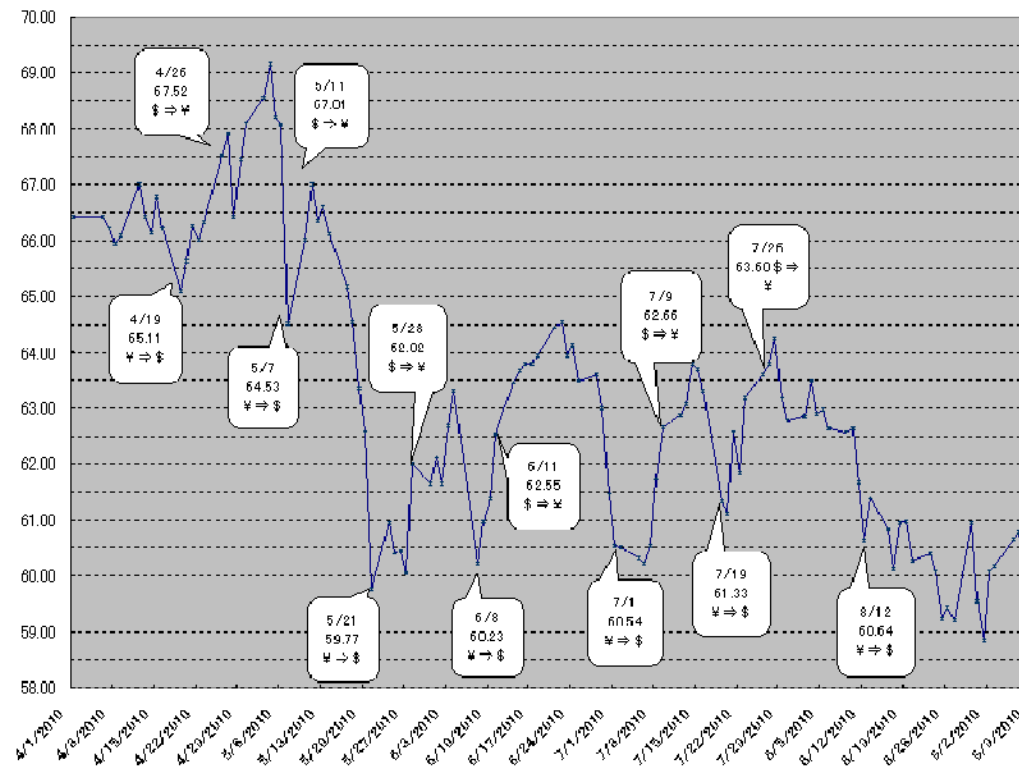


2. ワートルローファンドの具体的な特徴

- 為替変動を利用した資金運用 <参考 → [3. シミュレーション](#)>
ほかの通貨よりも変動幅が大きいニュージーランドドル為替相場の特性を活かし、資金運用を行う商品です。
- 使用する手法
Contrarian trading(逆張り)+Buy and Hold(買い持ち)
- 使用する主な通貨 <参考 → [5. 各通貨の為替推移](#)>
ニュージーランドドル=日本円=USドル=豪州ドル
これらの通貨は、それぞれ片方が上がれば片方が下がるなどの相関関係があり、常に団子のように固まりながら変動している通貨です。
- レバレッジリスクがゼロ
お預かりする信託資金で、為替取引を行います。証拠金取引ではありませんので、資金が目減りする心配がありません。
- 運用通貨は2種類 <詳細 → [8. お申込条件・詳細](#)>
お申込み通貨は、日本円、ニュージーランドドルからお選びいただくことができます。
- 年利8%以上を保証 <詳細 → [8. お申込条件・詳細](#)>
運用益の如何に関わらず、配当を保証する商品ですので、お客様のリスクはゼロです。
- 手数料無料 <詳細 → [8. お申込条件・詳細](#)>
お申込み、ご利用手数料は無料です。

3. ワートルローファンド運用について(シミュレーション)

本ワートルローファンドを運用した場合のシミュレーションです(運用金額は、10,000,000円です)。2010年1月からの為替の動きを振り返っていただき、各為替の動きにおいて、本ワートルローファンドを動かした場合、どのような利益が生じているのかご覧いただくことができます。



例えば、2010年4月19日(仲値 65.11 の日)に、10,000,000円をその日の買値 65.61 で両替すると、152,427.41ドルになります(次表参照)。

さらに、4月26日(仲値 67.52の日)に、売値 67.02 で両替すると、10,214,923円となります。

再度、5月7日(仲値 64.53の日)に、買値 65.03 で両替すると、157,080.16ドルとなり、利益 4,652.75ドルが発生し

■FX シミュレーション(表)

	仲値	前日差	累積差	売り	買い
19 Apr 2010	65.11	-1.10	-1.69	64.61	65.61
26 Apr 2010	67.52	1.18	1.50	67.02	68.02
27 Apr 2010	67.91	0.39	1.57	67.41	68.41
30 Apr 2010	68.10	0.66	1.68	67.60	68.60
07 May 2010	64.53	-3.54	-3.68	64.03	65.03
10 May 2010	66.02	1.49	-2.05	65.52	66.52
11 May 2010	67.01	1.00	2.48	66.51	67.51
18 May 2010	64.56	-0.61	-1.55	64.06	65.06
19 May 2010	63.37	-1.19	-1.80	62.87	63.87
20 May 2010	62.57	-0.80	-1.99	62.07	63.07
21 May 2010	59.77	-2.81	-3.61	59.27	60.27
24 May 2010	60.95	1.19	-1.62	60.45	61.45
28 May 2010	62.02	1.97	1.59	61.52	62.52
31 May 2010	61.65	-0.38	1.59	61.15	62.15
04 Jun 2010	63.32	0.65	1.68	62.82	63.82
08 Jun 2010	60.23	-3.10	-2.45	59.73	60.73
09 Jun 2010	60.97	0.74	-2.35	60.47	61.47
11 Jun 2010	62.55	1.16	1.58	62.05	63.05
14 Jun 2010	63.45	0.91	2.06	62.95	63.95
30 Jun 2010	61.45	-1.54	-2.14	60.95	61.95
01 Jul 2010	60.54	-0.92	-2.46	60.04	61.04
08 Jul 2010	61.75	1.21	1.53	61.25	62.25
09 Jul 2010	62.66	0.91	2.12	62.16	63.16
19 Jul 2010	61.33	-1.99	-2.38	60.83	61.83
20 Jul 2010	61.11	-0.22	-2.20	60.61	61.61
26 Jul 2010	63.60	0.40	1.77	63.10	64.10
12 Aug 2010	60.64	-1.04	-2.01	60.14	61.14
30 Aug 2010	60.96	1.75	1.53	60.46	61.46
01 Sep 2010	58.85	-0.71	-2.11	58.35	59.35

両替種類	JPY	NZD	利益累計
¥⇒\$	¥10,000,000	\$152,427.41	\$0.00
\$⇒¥	¥10,214,923		
¥⇒\$		\$157,080.16	\$4,652.75
\$⇒¥	¥10,447,401		
¥⇒\$		\$173,357.69	\$20,930.29
\$⇒¥	¥10,664,965		
¥⇒\$		\$175,627.26	\$23,199.85
\$⇒¥	¥10,896,793		
¥⇒\$		\$178,533.52	\$26,106.11
\$⇒¥	¥11,097,643		
¥⇒\$		\$179,500.90	\$27,073.50
\$⇒¥	¥11,326,507		
¥⇒\$		\$185,270.42	\$32,843.01
利益率	21.55%		\$32,843.01

為替変動に応じて、「日本円→ニュージーランドドル」、そして「ニュージーランドドル→日本円」を繰り返し、運用からおおよそ 4 ヶ月で、**利益率 21.55%**が可能になることがお分かりいただけます。

4. 逆張りの効果 ～だから、逆張りが生きる～

ニュージーランド通貨を1996年より運用してきた経験に基づき、その動向およびニュージーランド通貨に直接関連する近隣通貨を対象として、まず各通貨の現時点での実需ベースでの「本来あるべき為替レート」を設定する。次に実需に基づいて今後の各通貨間の為替動向を3カ月単位で設定する。従ってあるべき為替レートは常に変化するが、それは実需と乖離しない。

例: 2011年11月01日の1ニュージーランドドル=0.8USドルであるが、方向としてはニュージーランドドル高 USドル安の緩やかな流れが両国の間にある。これは米国が輸出倍増計画を打ち出しておりこれが長期の為替に対して影響を与えられ考えられるからだ。

短期の為替変動の要素としてはニュージーランドのOCR(オフィシャルキャシュレート、日本における公定歩合に当たる)発表、米国の雇用統計発表などに合わせて変動するが、これが実需に基づいた小さな範囲内での変動であれば乖離していないと判断する。

しかしこの変動が最初は小さくても一定短期期間内に急激に為替が変動した場合はヘッジファンドが参入してきた可能性が高い。そこでこのファンドに合わせた逆張りを開始する。

為替は常に変動しているし、ヘッジファンドがいつ参入してくるか分からない。しかし参入してくれば確実に実需よりも乖離した動きが起こるのですぐに分かる。この動きは以前ではトレーダーが自分の判断で行っていた為に慎重に動くのが常だったが現在の自動取引全盛の時代になるとトレーダーではなく自動取引システムが世界中の為替の小さな乖離を見つけるために24時間365日検索を続けており、ほんの小さな為替の変動でもそれを乖離と見做して大量の資金を一気にレバレッジ(槌子)を利かせて証拠金取引で参入してくるために非常に短い時間で相場が激しく動く。これが逆張りの最初の仕込み時になる。

例えば1ニュージーランドドル=0.8USドルだったのが、OCR発表により0.84USドルに上昇したとする。自動取引システムはこれを見つけてUSドルを大量に

売り、ニュージーランドドルを大量に購入する。これで US ドルが 0.88 まで上昇すると、これが呼び水となり他社の自動取引システムが参入してきて実需市場との乖離が始まる。

そして最後に参入するのが個人投資家や機関投資家である。例えばこの時点で1ニュージーランドドルが 0.95US ドルになっていたとする。彼らは通常「最後の投資家」と呼ばれるが、彼ら最後の投資家が「1.00US ドルまで、まだ上がるだろう」と踏んで参入した瞬間に最初の自動取引システムを運用していた会社が高くなったニュージーランドドルを一気に売りに出し安くなった US ドルを買う。

すると大量のニュージーランドドル売却によりそれまでの上げ相場が反転して一気に下げ相場に変わり、結果的に為替は本来の実需レートである1ニュージーランドドル 0.8US ドルに落ち着く。この時点で最初に投資したヘッジファンドは 0.8US ドルが 0.95US ドルになりこの取引で約20%の利益を得ることになった。

このような動きは本来小さな変動であったはずの市場でわざと乖離を広げて市場にプレイヤーを呼び込み彼らに順張りで資金を投資させておいて最後のプレイヤーが資金を投資した瞬間に売りに転じるので「ネイスンの逆張り」とも呼ばれている。

■ネイスンの逆張り -----

メイヤー・ロスチャイルドの事業における最も有名な逸話が「ネイスンの逆売り」である。当時ロンドンの株式市場が大きく注目していたのが、フランス皇帝ナポレオンの戦況であった。彼の勝利によるフランスの躍進は、同時に経済の中心を奪われる事を意味していたからである。特に 1815 年のワーテルローの戦いの勝敗が焦点であり、勝てば売り、負ければ買いと言われていた。そんな中、独自の情報網でナポレオン敗北の報をいち早く入手したネイスンは、セオリーと逆に猛烈な売りに出た。彼の情報網を知る市場はナポレオンが勝利したと判断し即座に反応、売りが集中して株価は暴落した。そこでネイスンは買いに転じて多くの株を紙屑同然の値段で取得。午後に証券取引所が閉まった時点で、取引所に上場されている全国債のうち 62%を取得していたという。その後ナポレオン敗北が報じられて株価が急上昇した事で巨額の利益を得たのである。これにより 300 万ドルだった自己資産は 75 億ドル、実に 2500 倍に増えた。

この手法は 1960 年代にヘッジファンドが高利回りを追求する過程で使用し始めた方法であり伝統的な投資ファンドの「Buy&Hold」とは全く違う。安い株や債券を仕入れて値上がりするまで待つて売る手法では時間がかかりヘッジファンドが必要とする高利回りが出せない。

そこに最高のブースターとなったのが1990年代後半からコンピューターとインターネットを利用した自動決済システムの開発と実用化である。今までは人間が自分の目で見ながら乖離を探していたのが、システムが導入される事で今までのようなトレーダーが不要となりシステムが24時間365日市場を見張る事になりすべてのヘッジファンドがトレーダーではなく若いシステムエンジニアを積極的に採用することになったのだ。

ただしこのシステムには大きな特徴がある。それは人間が操作しないから一旦乖離が始まると確実に他のシステムを呼び込み短時間に大きな流れを作り出すことが、いずれは本来のレートに戻るという事だ。本来あるべき価格に収れんするまで戻るわけなので本来価格よりも乖離が始まったら最初のシステムに同調してニュージーランドドルを買ってUSドルを売る、つまり逆張りを行うのである。

そして20~30%程度の利益が出た時点でニュージーランドドルを売り米ドルに戻すことで米ドルベースでの利益を確定させる。そして米ドルが本来レートの1ニュージーランドドル0.8USドルに戻った時点で取引終了である(これは取引に参入する時点でどちらの通貨から入るかによって終了が決まる)。

大事なポイントは、この運用取引はすべてレバレッジ 1 倍で行う点だ。通常は証拠金取引なので追加証拠金に耐えられずにポジションを損切りする必要があるが、この取引の場合は現金取引で追加証拠金は不要なので1週間でも10週間でも本来のレートに戻るまで待つことが出来る。そして本来のレートに戻った時に精算すれば利益が確定出来る。

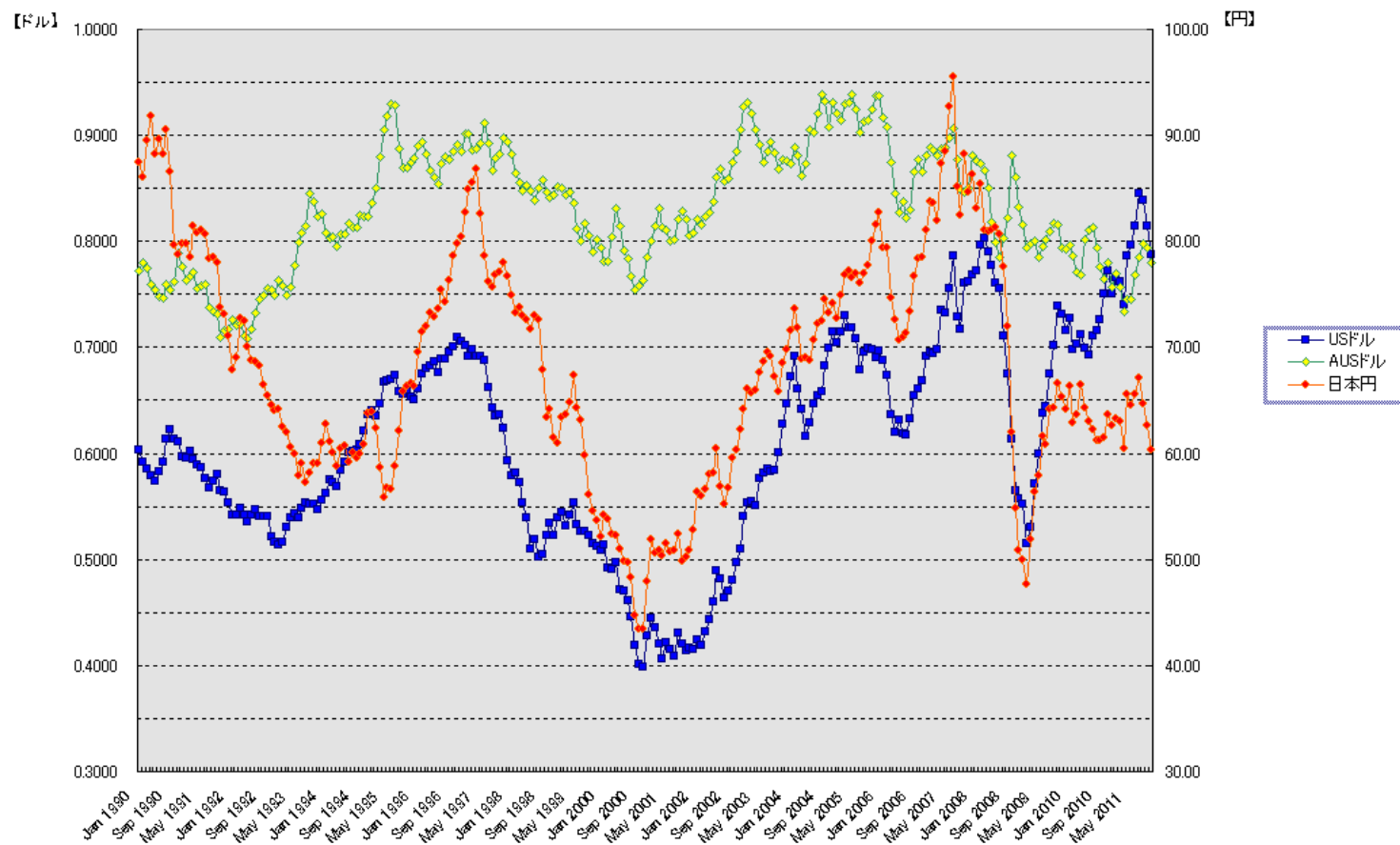
この手法はFX証拠金取引のような大きな利益は取れないが、リスクはゼロに近く為替の乖離を狙うアービトラージ手法を取り入れた **Buy&Hold** なので、売りから入り、どこまでも損失が膨らむようなヘッジファンド的危険性もない。

ここで大事なのは**市場のサインを読み取る能力**であるが、これは1996年から為替を扱い1999年には為替の自由化で日本円とニュージーランドドルの送金サービスを提供する事で培われた日本円動向ノウハウとニュージーランドドルに特化した上質の情報により支えられている。

この取引手法はアービトラージなので、いつどの通貨ペアで発生するかは市場次第である。一か月の取引が一回なのか10回なのかは相場次第であるが非常に安全策を取り入れた仕組みにより元金割れする可能性はないと言える。

5. 各通貨(USドル、豪州ドル、日本円)の為替推移

下記グラフをご覧くださいと分かるように、USドルと日本円は同じように推移していますが、オーストラリアドルは若干異なる動き方をしています。



<グラフ: 為替の推移>

6. ファンド運用実績① (JPY-NZD)

2010年11月に10,000,000円の運用をはじめてからの記録です。

およそ8ヶ月後、2011年7月の段階で、10,981,195円(運用益981,195円)となっています。

■日本円→ニュージーランドドル

取引日	JPY	レート	NZD	運用益
2010-11-25	¥10,000,000	63.57	\$157,306.91	N/A
2011-5-4	¥10,366,525	64.88	\$159,779.98	\$2,473.07
2011-7-13	¥10,625,369	64.50	\$164,734.40	\$4,954.42
2011-8-9	¥10,981,195	64.50	\$170,251.09	\$5,516.69
			合計	\$12,944.18
			運用益率	8.22%

■ニュージーランドドル→日本円

取引日	NZD	レート	JPY	運用益
2011-4-14	\$157,306.91	65.90	¥10,366,525	¥366,525
2011-5-31	\$159,779.98	66.50	¥10,625,369	¥258,844
2011-7-14	\$164,734.40	66.66	¥10,981,195	¥355,826
			合計	¥981,195
			運用益率	9.81%

およそ8%~10%の運用利益が出ていることがお分かりいただけます。

7. ファンド運用実績② (JPY-NZD-USD-AUD)

本ファンドは、前述「6. ファンド運用実績①」のように、基本的にニュージーランドドルと日本円で取引を行いますが、変動幅の異なる US ドル、オセアニア通貨であるオーストラリアドルを補助的に用いることで、より積極的、且つ、効率のよい運用が可能となります。

取引日	NZD	レート	通貨		取引日	通貨	レート	NZD	運用益
2011-8-30	\$100,000.00	0.8491	US\$84,910.00	⇒	2011-9-6	US\$84,910.00	0.8291	\$102,412.25	\$2,412.25
2011-10-4	\$102,412.25	0.7880	AU\$80,700.86	⇒	2011-10-21	AU\$80,700.86	0.7790	\$103,595.45	\$1,183.20
2011-10-31	\$103,595.45	63.97	JPY6,627,000	⇒	2011-11-2	JPY6,627,000	62.39	\$106,218.95	\$2,623.49
								合計	\$6,218.94
								運用益率	6.22%

8. ワートルローファンド お申込条件・詳細

受付	日本円	1,000万円 以上
	ニュージーランドドル	10万ドル 以上
運用配当率	1年: 8% 2年: 10% 3年: 12%	
申し込み時手数料	なし	
年間維持手数料	なし	

※ 送金には別途手数料がかかります。

※ 運用(受付)通貨と資金受取通貨が異なる場合は、差損が発生する可能性があります。

※ 中途解約は原則としてお受けできません。

※ 課税はNZ税法に基づき、配当より徴収、支払いを行います。

9. 会社概要

会社名	East Wind Company Limited
会社住所	7F, The Data Centre Building, 220 Queen St, Auckland Central, Auckland, New Zealand
代表取締役社長	Masatomo ASHIKAGA
顧問弁護士	Queen City Law Office Level 8, 203 Queen St, Auckland, New Zealand http://www.queencitylaw.co.nz/
	Marcus BEVERIDGE
顧問公認会計士	Y M CHAN CHARTERED ACCOUNTANT Level 6, 121 Beach Rd, Auckland, New Zealand
	Yau Min CHANG
お問合せ窓口	finance@eastwind.co.nz